

54 関係代名詞の省略

制限的關係節 (restrictive relative clause) における **関係代名詞 (relative pronoun)** の省略は、学校文法では「目的格の関係代名詞は省略できるが主格の関係代名詞は省略できない」と教えられることが多い。(1)を見てみよう。

(1) a. I talked to the doctor (who) I met at the party.

b. I talked to the doctor *(who) came to the party. (岡田 1986: 192)

しかし、これでは説明できない事例がいくつか出てくる。次の例は主格の関係代名詞であるのに省略できる例である。

(2) This is the woman (who/that) Ann said could show us the church.

(Swan 2005³: 486)

(3) He is not the man ϕ he once was *t*. (安藤 2005: 188)

(4) It's the only one ϕ there is in the shop. (ibid.: 189)

逆に、以下の例は目的格の関係代名詞であるのに省略できない例である。

(5) a. I talked to the doctor who, probably, you met at the party.

b. *I talked to the doctor, probably, you met at the party. (千葉 2019: 38)

(6) This is the house in *(which) she lives. (岡田 1986: 193)

関係代名詞の省略について、岡田 (1986) によると、Stockwell et al. (1973: 493–494) は次のような関係代名詞削除規則を設定した。

(7) 直後に名詞句が来る関係代名詞は省略できる。

(7) に従うと、上記の (1) – (5) の例は全て説明できる。(1b) は関係代名詞の直後が動詞であり、(5b) は直後が副詞であるので、関係代名詞が省略できないことが説明できる。(1) – (5) の文法的な例は、全て関係代名詞の直後に名詞句が来ているから関係代名詞が省略できることを (7) は正しく予測する。しかし、(7) では (6) の非文法性は説明できない。

さらに、千葉 (2019) で指摘されているように、以下の非文法的な例も (7) では予測できない。

(8) a. He gave something to his sister that he was very fond of.

b. *He gave something to his sister he was very fond of. (千葉 2019: 39)

そこで、岡田 (1986) では関係代名詞の省略について、次のような提案をしている。

(9) 直前に先行詞、直後に名詞句が来る場合に限り、関係代名詞は省略できる。

(岡田 1986: 200)

これによって、(6)と(8)の非文法性は直前に先行詞が来ていないことで正しく予測される。

一方、長谷川(2003)は関係節において省略できる関係詞は、thatのみであって、whoやwhichは削除されないと主張している。(1a)の場合は、whoではなくthatの省略と考える。**非制限的關係節 (non-restrictive relative clause)**はwhoやwhichのwh句だけが導入できて、thatは導入できない。そして、非制限的關係節においては関係代名詞は省略できない。従って、関係代名詞のうちthatのみが省略されるとすれば、非制限的關係節の関係詞が省略できないことが説明できる。

また、(6)のような随伴の例では、wh関係詞のみが前置詞の随伴した関係節を形成することが可能で、関係詞のthatは前置詞の随伴した関係節を作ることができない。

(10) a. This is the house in *(which) she lives. (= (6))

b. *This is the house in that she lives.

従って、(10a)が非文法的であるのは、wh関係詞が省略できないからと言える。

(10b)は関係詞thatを省略する前から非文法的な文である。

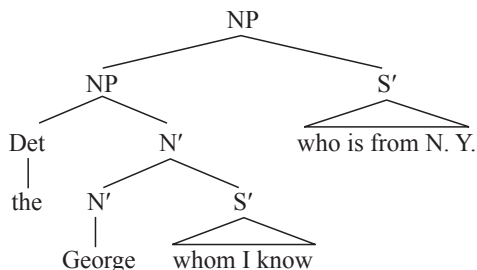
そして、長谷川(2003)は、直後に名詞句が来る(11)の環境において関係詞のthatが削除可能であると提案している。

(11) [_{N'} N' [_{S'} that NP X]]

(長谷川 2003: 117)

長谷川(2003)の關係節の構造を以下に示す。

(12) the George whom I know, who is from New York の構造



(ibid.: 116)

長谷川(2003)は制限的關係節はN'に付加され、非制限的關係節はNPに付加されると考えている。そして、制限的關係節の關係詞の先行詞はN'で、非制限的關係節の關係詞の先行詞はNPであるとしている。そうすると、長谷川(2003)の關係詞thatの削除される(11)の環境は、關係詞thatの直前に先行詞があり、直後に名詞句があるということになる。

(野村 美由紀)